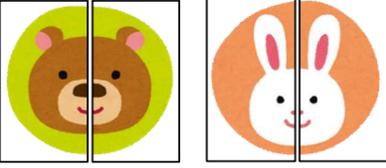
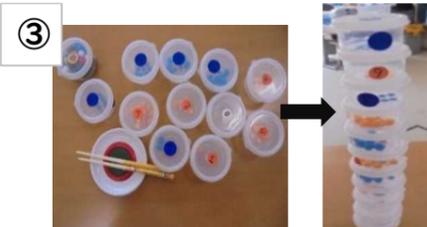
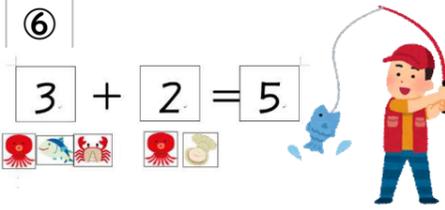
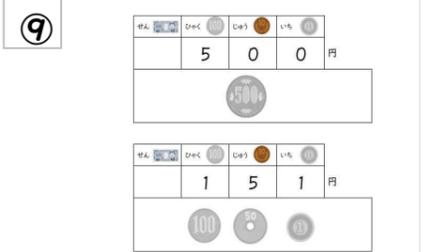
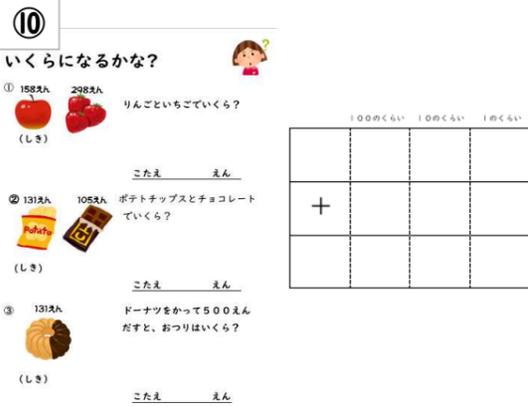
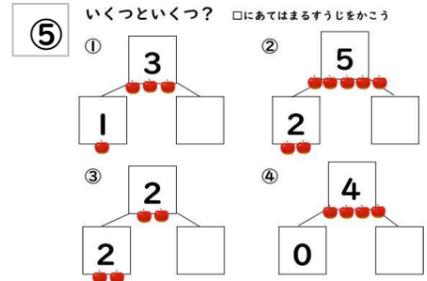
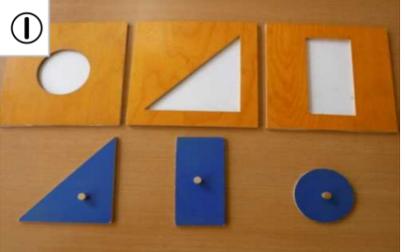
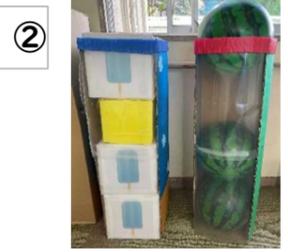


| 小学部 | | | | 中学部 | | |
|-------|---|------|------|-----|------|------|
| 分類 | 第1段階 | 第2段階 | 第3段階 | 分類 | 第1段階 | 第2段階 |
| 数量の基礎 | <p>具体物の「ある」「ない」が分かり、具体物を指を差したり、つかもうとしたりするなど、具体物を対象として捉えることについて指導する。また、対象として捉えた具体物について、対応させたり、形、色、大きさなどの属性で見分けたりすることについて指導する。</p> | | | | | |
| | <p>①</p>  <p>見つけよう ピン球の入っている方の入れ物に手を伸ばす。 ★具体物に気付いて、つかもうとする。</p> | | | | | |
| | <p>②</p>  <p>くばろう 具体物を操作して、1つのものに他の1つのものを対応させて配る。 ★ものともを対応させて配る。</p> | | | | | |
| | <p>③</p>  <p>絵合わせ 2分割した絵カードを組み合わせる。 ★分割した絵カードを組み合わせる。</p> | | | | | |

| 小学部 | | | 中学部 | | | |
|------|---|--|--|---|--|------|
| 分類 | 第1段階 | 第2段階 | 第3段階 | 分類 | 第1段階 | 第2段階 |
| 数と計算 | <p>ものの数を数える素地を養うことをねらいとし、具体物の量を数で表すことを体験的に気付くことができるよう、3までの範囲のものの数を捉えることや、5までの範囲で数を唱えることについて指導する。</p> | <p>これまで直感的に捉えていたものの数を、ものと数詞とを対応させてものの個数を判断できるようにするとともに、10までの数の意味や表し方について指導する。</p> | <p>2段階で学習した10までのものの数の数え方や比べ方、表し方の内容を踏まえながら、徐々に数の範囲を広げていき、数のまとまりに着目することのよさに気付くことができるように促しながら、100までの数の意味や表し方について指導する。また、和が20までの数の加法や20までの数の減法についても取り扱う。</p> | <p>小学部で学習した数のまとまりに着目した数の考え方や比べ方について理解を深めるとともに、数の乗法的な見方についても指導する。また、1000についても扱い、十進位取り記数法の原理についての基礎的な理解を図ることができるようにする。計算では、十を単位としてみる見方に着目して、2位数の加法及び減法の計算ができるようにし、計算機による数の表し方や加法及び減法の計算についても指導する。簡単な場合の3位数などの加法及び減法も取り扱い、2段階で学習する3位数や4位数の計算の仕方を考えることにつなげるようにする。</p> | <p>1段階で学習した十、百を単位とした数のまとまりに着目した学習を踏まえながら、数の範囲を4位数までに広げて、十進位取り記数法による数の表し方や数の相対的な大きさについて指導し、数の概念や性質の理解を深めることができるようにする。整数の計算では、1段階で学習した2位数の加法及び減法の計算を基にして、3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方を考えたり、1位数同士の乗法の計算の技能の習熟を図ったりする。また、乗法と関連付けながら、除数と商が共に1位数である除法などについて指導する。</p> | |
| |  <p>①</p> |  <p>③</p> |  <p>⑥</p> |  <p>⑨</p> |  <p>⑩</p> | |
| | <p>教材： 筑波大学附属特別支援学校研究会より</p> <p>棒通し 教師に数を数えてもらったり、数えたりしながら、棒に球を差し込む。 ★5までの数を唱える。 (1段階では4は「し」と唱える)</p>  <p>②</p> <p>3までの具体物 点シールを頼りに1対1対応でおはじきを入れ、数字に親しむ。 ★3までの範囲で具体物を取る。</p> | <p>数を並べよう 1～10の決められた個数分の玉を入れ、下から順番に積み上げる。 ★数詞とものを対応させて個数を正しく数える。</p>  <p>④</p> <p>おはじき入れ 数字と同じ数のおはじきを箱に入れる。 ★ものと数詞を対応して、数字が分かる。</p>  <p>⑤</p> <p>いくつといくつ イラストをヒントに数の分解をする。 ★1つの数を2つにの数に分けたり、2つの数を1つの数にまとめたりする。</p> | <p>あわせていくつ 釣った魚の数を足し算の式に表し合計を考える。 ★加法の意味を理解し、簡単な計算ができる。</p>  <p>⑦</p> <p>計算カード 繰り上がりのある足し算(答えが20まで)や、繰り下がりのない引き算に取り組む。 ★加法・減法の意味を理解し、計算する。 ★一位数と一位数との加法の計算ができる。</p>  <p>⑧</p> <p>ものの数を数えよう 袋に2つずつ、5つずつ、10つずつなどのまとまりにして、数える。 ★数える対象をまとまりで数える。</p> | <p>数を出そう 決まった金額を硬貨で表す。(十進位取り記数法) ★数を十や百を単位として見るなど、数の相対的な大きさについて理解する。 ★数のまとまりに着目し、数え方を考え日常生活で活かす。</p> | <p>いくらになるかな? ① 158円、298円 リンごごとちごていくら? ② 131円、105円 ポテトチップスとチョコレートていくら? ③ 131円 ドーナツをかって500円だすと、おつりはいくら?</p> <p>3位数同士の足し算 ★3位数の加法及び減法の計算の仕方について分かる。また筆算についての仕方を知る。</p> | |

| 小学部 | | | 中学部 | | | |
|-----|---|---|---|--|---|------|
| 分類 | 第1段階 | 第2段階 | 第3段階 | 分類 | 第1段階 | 第2段階 |
| 図形 | 身の回りにあるものの形についての基礎的な概念を養うことをねらいとし、身の回りのものには上下や前後、形に違いがあることを体験的に気付くことができるように指導する。 | 身の回りにあるものの形について指導し、形に着目して集めたり、分類したりすることを取り扱う。身の回りのものを様々な属性で、分類したり、集めたりする活動を通して、形という属性に気付くことで、図形に関心をもち、算数で学んだことを生かして、日常生活の中で身近なものの形に気付く楽しさを感じることができるよう指導する。 | 図形に対する理解の基礎となる経験を豊かにすることをねらいとして、ものの形を認めたり、形の特徴を捉えたりすることや角の大きさの意味について指導する。 | 図形を構成する辺や頂点の数に着目して、図形を弁別することを指導する。平面図形としては、正方形、長方形、直角三角形について指導する。図形を構成する要素として、直線、直角、頂点、辺及び面という用語について理解させ、用語を用いて図形の性質を表現することができるようにし、要素をもとにして実際に図形を構成したり、かいたり、基礎となる図形を構成する要素に着目し、それを基に考えていく態度を養う。 | 図形を構成する要素の関係に着目し、辺の長さの相等や角の大きさの相等に着目して二等辺三角形、正三角形について知るとともに、角について知るところをねらいとしている。また、図形の面積の単位と測り方、図形の面積の求め方、角の単位の測り方について指導する。 | |
| |  <p>型はめ 簡単な形を型枠にはめる。 見て、形を捉える。 ★形を見比べて、区別する。 ★形が同じものを選ぶ。</p> |  <p>形の分類 丸、三角、四角に分ける。 ★形に着目して分類する。</p> |  <p>パズル いろいろな形を組み合わせて、見本と同じように図形を構成する。 ★具体的な操作を通して、三角や四角の特徴を捉える。 ★形を作ったり分解したりする。</p> | | | |
| |  <p>わけよう サイコロ(立方体)とボール(球)をそれぞれ箱に入れる。 ★形が同じものを選ぶ。</p> |  <p>食器の分類 身の回りにあるものを形や大きさ、色だけでなく、違う要素で分類する。 ★身近なものを目的や用途及び機能に着目し、共通点や相違点を考える。</p> |  <p>形を作ろう(立体) 見本を見て、ブロックを組み立てる。 ★ものの形に着目し、形の特徴が分かる。</p> | | | |
| |  <p>丸・三角・四角 形だけに注目して、分類する。 ★身の回りにあるものの形に注目して、丸や三角、四角に分類する。</p> |  <p>なんばんめ? 指示された「○ばんめはなに?」という質問に答える。 ★方向や位置に関する言葉を用いて、ものの位置を表す。</p> | | | | |

今後更新していきます。